

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-92564

(43) 公開日 平成7年(1995)4月7日

(51) Int.Cl.⁶

G 0 3 B 21/56

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

9224-2K

審査請求 未請求 請求項の数 7 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号

特願平5-233134

(71) 出願人 000006013

三菱電機株式会社

東京都千代田区丸の内二丁目2番3号

(22) 出願日

平成5年(1993)9月20日

(72) 発明者 油利 亨

京都府長岡京市馬場園所1番地 三菱電機株式会社京都製作所内

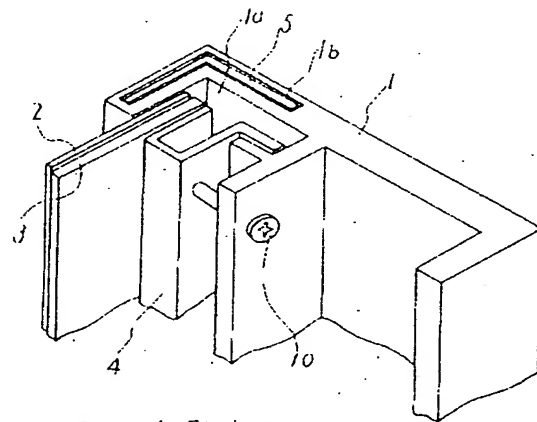
(74) 代理人 弁理士 高山 守

(54) 【発明の名称】 プロジェクションテレビのスクリーン取付構造

(57) 【要約】

【目的】 プラスチック製の安価なフレームで強度を保ちつつ、スクリーンの熱膨張によるスクリーンの伸縮に対応でき、且つ、スクリーンの厚み変化にも対応できるようにした。

【構成】 スクリーンF2およびスクリーンR3と同程度の熱膨張率を有した材質でフレーム1とスクリーンホルダー4を形成し、フレーム1の補強のための補強プレート5をフレーム1の補強部材挿入用穴1bに挿入し、スクリーンホルダー4をネジ10で押圧してスクリーンF2とスクリーンR3とをフレーム1に固定支持する。



1. フレーム

1b 補強部材挿入穴

10. ねじ

2 スクリーンF

3 スクリーンR

4 スクリーンホルダー

5 補強プレート

10. ねじ

【特許請求の範囲】

【請求項1】 スクリーンとそのスクリーンの端部を支持するフレームを有するプロジェクションテレビのスクリーン取付構造において、前記スクリーンの端部が挿入される溝と、この溝に平行した補強部材挿入部とをフレームに設けると共に、この補強部材挿入部に挿入される金属性の補強部材と、前記溝内に挿入された前記スクリーンの端部をこのスクリーンの前後方向に押圧して支持する押圧手段とを設け、且つ、前記フレームの材質を前記スクリーンと同程度の熱膨張率を有する材質としたことを特徴とするプロジェクションテレビのスクリーン取付構造。

【請求項2】 押圧手段はフレームの前面部との間でスクリーンの端部を挟み込むスクリーンホルダーを介して押圧する手段とすると共に、このスクリーンホルダーの材質を前記スクリーンと同程度の熱膨張率を有する材質としたことを特徴とする請求項1項記載のプロジェクションテレビのスクリーン取付構造。

【請求項3】 補強部材はL字形の部材とすると共に、フレームの補強部材挿入部は前記フレームの前面部と側面部に亘るL字形の穴としたことを特徴とする請求項1項または2項に記載のプロジェクションテレビのスクリーン取付構造。

【請求項4】 補強部材は柱状の部材とすると共に、フレームの補強部材挿入部は前記フレームの側面部に設けられ前記柱状の補強部材が挿入される穴としたことを特徴とする請求項1項または2項に記載のプロジェクションテレビのスクリーン取付構造。

【請求項5】 スクリーンとそのスクリーンの端部を支持するフレームを有するプロジェクションテレビのスクリーン取付構造において、L字形の一辺部が前記フレームの側面部に設けた補強部材挿入部に前記スクリーンの前後方向に移動可能に挿入され、L字形の他の一辺部が前記フレームの前面部と対向するL字形の金属製の補強部材を設けて、前記フレームの前面部とこの前面部と対向する前記補強部材の他の一辺部との間で前記スクリーンの端部が挿入される溝を形成し、この溝内に挿入された前記スクリーンの端部をスクリーンの前後方向に押圧して支持する押圧手段を設け、且つ、前記フレームの材質を前記スクリーンと同程度の熱膨張率を有する材質としたことを特徴とするプロジェクションテレビのスクリーン取付構造。

【請求項6】 スクリーンとそのスクリーンの端部を支持するフレームを有するプロジェクションテレビのスクリーン取付構造において、前記スクリーンの端部が挿入される溝と、この溝の奥でその側面部に沿った補強部材挿入部とを前記フレームに設け、L字形の一辺部が前記補強部材挿入部に前記スクリーンの前後方向に移動可能に挿入されると共に、L字形の他の一辺部と前記フレームの前面部との間で前記スクリーンの端部を挟み込むL

字形の補強部材と、この補強部材を前記スクリーンの端部へ押圧して前記スクリーンを挟持する押圧手段とを設け、且つ、前記フレームの材質を前記スクリーンと同程度の熱膨張率を有する材質としたことを特徴とするプロジェクションテレビのスクリーン取付構造。

【請求項7】 投射された投射光を映像として写し出すスクリーンフロントパネルたるスクリーンFと、このスクリーンFの投射側に配置されたスクリーンリアパネルたるスクリーンRとで構成されたスクリーンと、このスクリーンの端部を支持するフレームを有するプロジェクションテレビのスクリーン取付構造において、前記スクリーンの端部が挿入される溝と、この溝に平行した補強部材挿入部とをフレームに設けると共に、この補強部材挿入部に挿入される金属性の補強部材と、前記溝内に配設され、前記スクリーンFとスクリーンRとの間に間隙を有するようその一端部が前記スクリーンFとスクリーンRとの間にスペーサとして挿入されると共に、その他端部が前記フレームの前面部との間で前記スクリーンの端部を挟み込むスクリーングリップと、このスクリーングリップを押圧して前記スクリーンの端部を挟持する押圧手段とを設け、且つ、前記フレームとスクリーングリップの材質を前記スクリーンと同程度の熱膨張率を有する材質としたことを特徴とするプロジェクションテレビのスクリーン取付構造。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 この発明はプロジェクションテレビ（以下PTVと呼ぶ）のスクリーン取付構造に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 図8は、従来のPTVのスクリーンが取付られた完成図でCRT側から見た斜視図、図9は図8の要部を拡大した斜視図である。図において、1はPTVの意匠部であり、なおかつ構造部として強度の必要なフレームで、2および3は投射された投射光を映像として写し出すスクリーンフロントパネルたるスクリーンF、またスクリーンFと密着され投射光側に配置されたスクリーンリアパネルたるスクリーンRであり、この両者でスクリーンを構成し、このスクリーンの端部はフレーム1で支持されている。

【0003】 4は前記フレーム1の溝1aにはめ込むと共に、溝1d内で前記スクリーンF2とスクリーンR3の端部を押圧して固定する弾性を有するスクリーンホルダーである。11はコーナーキャップで、フレーム4の四隅の補強強化をすると共に、意匠も良くしている。

【0004】 次に動作について説明する。フレーム1はPTVの意匠となりうる外観部品であり、また、スクリーンF2およびスクリーンR3を固定すべき強度の必要な部品で、通常アルミニウム等の非鉄金属で作られている。スクリーンF2、スクリーンR3はブラウン管より

投射された画像を写し出すもので、プラスチック材で作られている。スクリーンホルダー4は前記スクリーンF2とスクリーンR3をフレーム1との間で挟み込むもので、スクリーンF2、スクリーンR3の熱膨張を妨げない程度の固定を行う。

【0005】前記スクリーンF2、スクリーンR3は熱及び湿度で膨張する性質を有しており、その伸びはフレーム1との間で摺動して吸収される。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】従来のスクリーン取付構造は以上のように構成されているので、フレーム1は外的強度及びスクリーンF2とスクリーンR3の摺動に耐えうる強度が必要で高価なアルミニウム材を使用しなければならず、またスクリーンF2、スクリーンR3が薄型化するに従い、スクリーンF2とスクリーンR3を今まで以上に強固に固定する必要性が生じる。またスクリーンF2やスクリーンR3の厚みが種々変わったものを使用する場合、フレーム1やスクリーンホルダー4の形状や寸法をその都度変える必要があるという問題点があった。

【0007】この発明は、上記のような問題点を解消するためになされたもので、強度的に十分耐え、意匠的にも満足の得られる構造を目的とし、同時に薄型化されたスクリーンFとスクリーンRを強固に止め、スクリーンの熱膨張によるたわみ防止の役割を備えたスクリーンの支持構造を提供することを目的とする。

【0008】なお、スクリーンの伸縮を吸収する取付構造には、実開平4-4478号、実開平4-70645号、特開平5-40315号公報等があるが、これらはスクリーンの伸縮のみに対処するものである。

【0009】

【課題を解決するための手段】この発明に係るスクリーン取付構造は、スクリーンとそのスクリーンの端部を支持するフレームを有するプロジェクションテレビのスクリーン取付構造において、前記スクリーンの端部が挿入される溝と、この溝に平行した補強部材挿入部とをフレームに設けると共に、この補強部材挿入部に挿入される金属性の補強部材と、前記溝内に挿入された前記スクリーンの端部をこのスクリーンの前後方向に押圧して支持する押圧手段とを設け、且つ、前記フレームの材質を前記スクリーンと同程度の熱膨張率を有する材質としたものである。

【0010】また、押圧手段はフレームの前面部との間でスクリーンの端部を挟み込むスクリーンホルダーを介して押圧する手段とすると共に、このスクリーンホルダーの材質を前記スクリーンと同程度の熱膨張率を有する材質としたものである。

【0011】また、補強部材はL字形の部材とすると共に、フレームの補強部材挿入部は前記フレームの前面部と側面部に亘るL字形の穴としたものである。

【0012】また、補強部材は柱状の部材とすると共に、フレームの補強部材挿入部は前記フレームの側面部に設けられ前記柱状部材が挿入される穴としたものである。

【0013】また、スクリーンとそのスクリーンの端部を支持するフレームを有するプロジェクションテレビのスクリーン取付構造において、L字形の一边部が前記フレームの側面部に設けた補強部材挿入部に前記スクリーンの前後方向に移動可能に挿入され、L字形の他の一边部が前記フレームの前面部と対向するL字形の金属製の補強部材を設けて、前記フレームの前面部とこの前面部と対向する前記補強部材の他の一边部との間で前記スクリーンの端部が挿入される溝を形成し、この溝内に挿入された前記スクリーンの端部をスクリーンの前後方向に押圧して支持する押圧手段を設け、且つ、前記フレームの材質を前記スクリーンと同程度の熱膨張率を有する材質としたものである。

【0014】また、スクリーンとそのスクリーンの端部を支持するフレームを有するプロジェクションテレビのスクリーン取付構造において、前記スクリーンの端部が挿入される溝と、この溝の奥でその側面部に沿った補強部材挿入部とを前記フレームに設け、L字形の一边部が前記補強部材挿入部に前記スクリーンの前後方向に移動可能に挿入されると共に、L字形の他の一边部と前記フレームの前面部との間で前記スクリーンの端部を挟み込むL字形の補強部材と、この補強部材を前記スクリーンの端部へ押圧して前記スクリーンを挟持する押圧手段とを設け、且つ、前記フレームの材質を前記スクリーンと同程度の熱膨張率を有する材質としたものである。

【0015】また、投射された投射光を映像として写し出すスクリーンフロントパネルたるスクリーンFと、このスクリーンFの投射側に配置されたスクリーンリアパネルたるスクリーンRとで構成されたスクリーンと、このスクリーンの端部を支持するフレームを有するプロジェクションテレビのスクリーン取付構造において、前記スクリーンの端部が挿入される溝と、この溝に平行した補強部材挿入部とをフレームに設けると共に、この補強部材挿入部に挿入される金属性の補強部材と、前記溝内に配設され、前記スクリーンFとスクリーンRとの間に間隙を有するようその一端部が前記スクリーンFとスクリーンRとの間にスペーサとして挿入されると共に、その他端部が前記フレームの前面部との間で前記スクリーンの端部を挟み込むスクリーングリップと、このスクリーングリップを押圧して前記スクリーンの端部を挟持する押圧手段とを設け、且つ、前記フレームとスクリーングリップの材質を前記スクリーンと同程度の熱膨張率を有する材質としたものである。

【0016】

【作用】この発明におけるスクリーン取付構造は、スクリーンと同程度の熱膨張率を有する材質で作ったフレ

ムを使用して熱膨張に対処し、また、補強部材をフレームに挿入し取り付けることによって、フレームの強度を増し金属性でない安価なフレームとし、また、押圧手段は厚みの異なるスクリーンに対しても押圧支持する。

【0017】また、押圧手段はスクリーンの材質と同程度の熱膨張率を有する材質のスクリーンホルダーを介して押圧することで熱膨張に対処する。

【0018】また、補強部材をL字形とし、フレームの前面部と側面部に亘ってこの補強部材を挿入するとフレームの強度を増し金属性でない安価なフレームとする。

【0019】また、補強部材を柱状の部材とし、フレームの側面部に挿入してフレームの強度を増し金属性でない安価なフレームとする。

【0020】また、補強部材をL字形とし、そのL字形の一辺部とフレームの前面部との間でスクリーンの端部を挟持し、補強部材はフレームの補強とスクリーンの支持との両者を行うと共に、押圧手段は厚みの異なるスクリーンに対しても押圧支持する。

【0021】また、補強部材をL字形とし、そのL字形の一辺部がフレームの補強用部材挿入部にスクリーンの前後方向に移動可能に挿入され、L字形の他の一辺部とフレームの前面部との間でスクリーンの端部を挟持し、補強部材はフレームの補強とスクリーンの支持との両者を行うと共に、押圧手段は厚みの異なるスクリーンに対しても押圧支持する。

【0022】また、スクリーンと同程度の熱膨張率を有する材質で作ったフレームを使用して熱膨張に対処し、また、補強部材をフレームに挿入し取り付けることによって、フレームの強度を増し金属性でない安価なフレームとする。また、スクリーンの厚みの変化にも対応できるようにスクリーンをスクリーングリップを介して押圧支持し、更に、スクリーンがスクリーンFとスクリーンRとで構成されているので、スクリーンFとスクリーンRとの間に間隙を設けるためスクリーングリップの一端部をスペーサとして挿入し、輸送中のスクリーンFとスクリーンRとの摩擦による損傷を防止する。

【0023】

【実施例】

実施例1. 以下、この発明の実施例1を図1について説明する。図において、1はフレーム、1bは補強部材挿入用穴、1dは後述のスクリーンF2とスクリーンR3の端部が挿入される溝、2は投射された投射光を映像として写し出すスクリーンフロントパネルであるスクリーンF、3はスクリーンF2の投射側に配置されたスクリーンリアパネルであるスクリーンRで、スクリーンFとスクリーンRとでスクリーンを構成する。

【0024】4は前記フレーム1にネジ10によって前後方向に移動可能に保持されたスクリーンホルダーで、ネジ10を回動することにより前後方向に移動する。5は前記フレーム1に設けられた補強部材挿入用穴1bに

挿入し、フレームの強度を上げるための補強プレートである。

【0025】ここで、フレーム1およびスクリーンホルダー4はスクリーンF2、スクリーンR3と同等レベルの熱膨張率の材質で作られている。即ち、スクリーンF2とスクリーンR3とは、通常、合成樹脂が用いられるので、フレーム1とスクリーンホルダー4も同質の合成樹脂が用いられる。10はスクリーンホルダー4を介してスクリーンF2とスクリーンR3の端部を押圧して支持するネジで、スクリーンの厚み変化によってネジ込み量を変え、スクリーンの厚み変化に対応できる構造になっている。このネジ10とスクリーンホルダー4とで押圧手段を形成する。

【0026】次に動作について説明する。PTVに使用するスクリーンF2、スクリーンR3は外的温度あるいは、内部から発熱する温度で伸縮するが、スクリーンF2、スクリーンR3と同程度の熱膨張率を有する材質のフレーム1とスクリーンホルダー4はスクリーンと同じように伸縮することでスクリーンにたわみ、あるいはストレスを生じさせないようにしている。

【0027】また、補強プレート5はフレーム1に設けられた補強部材挿入用穴1bに挿入することにより強度を保つ。また、フレーム1の伸縮を妨げないよう補強部材挿入用穴1bと補強プレート5との間に若干のスキ間を設け取り付けの方がよい。

【0028】ネジ10はスクリーンホルダー4をスクリーンF2、スクリーンR3に押しつけ固定支持すると共に、スクリーンF2、スクリーンR3の厚みが変化してもネジ込み量を変えることにより取付可能にしている。

【0029】従って、フレーム1とスクリーンホルダー4とをスクリーンF2、スクリーンR3と同程度の熱膨張率を有した材質で形成することにより、スクリーンF2、スクリーンR3が温度等で伸縮すると、フレーム1とスクリーンホルダー4は同じく伸縮し、図8に示したものに例えれば、フレーム枠が縦、横両方向に伸縮しスクリーンはたわみのない状態を保持できる。

【0030】また、フレーム1の補強プレート5は、フレーム1に設けられた補強部材用の穴1bに対して摺動可能にすると、フレームは自由に伸縮できる。また、ネジ10でスクリーンホルダー4を介してスクリーンを押圧するようにしたので、スクリーンの厚みの変化に対応できる。

【0031】以上の実施例では、スクリーンをスクリーンF2とスクリーンR3との2枚で構成したものを用いたが、スクリーンは1枚のものでも適用できる。また、補強部材の挿入箇所はフレーム1の前面部と側面部に亘ってL字形の補強部材挿入用穴に挿入するようにしたが、フレーム1の後面部と側面部に亘ってL字形の補強部材挿入用穴を追加して、2箇所で補強するようにしてもよい。また、場合によっては、フレーム1の後面部と

側面部に亘る一カ所としてもよい。

【0032】実施例2。上記実施例1では、スクリーンホルダー4がネジ10にてスクリーンF2、スクリーンR3の厚み変化に対応し、また、スクリーンF2、スクリーンR3をスクリーンホルダー4を介してネジ10にて固定支持したが、図2に示すように弾力性のある形状にしたスクリーンホルダー4を形成し、スクリーンF2、スクリーンR3を固定支持することもできる。

【0033】フレーム1およびスクリーンホルダー4は実施例1と同じくスクリーンF2、スクリーンR3と同程度の熱膨張率を有した材質で形成されており、フレーム1の強度は補強プレート5で補強される。スクリーンホルダー4は、フレーム1の溝1aに挿入することでスクリーンF2、スクリーンR3を固定すると共にフレーム1と同じ伸縮を行う。

【0034】従って、温度等で伸縮するスクリーンF2、スクリーンR3に伴って、フレーム1およびスクリーンホルダー4が伸縮するので、スクリーンF2、スクリーンR3にたわみ等ストレスが生じない。また、補強プレート5は補強部材挿入用穴1bに挿入され、フレーム1の熱による摺動を妨げないようになっている。

【0035】実施例2は、スクリーンの厚みの変化による対応はスクリーンホルダー4のサイズを変えたものを使用しないかぎり不可能であるが、実施例1に比べスクリーンホルダー4を簡単に装着することができる。また、補強プレート5によるフレーム1の補強をすると共に、補強プレート5およびフレーム1とスクリーンF2、スクリーンR3と同程度の熱膨張率の材質を使用することによってたわみ等を生じさせない効果がある。

【0036】実施例3。図3は、実施例2の補強プレート5を補強パイプ7としたものである。作用、効果は、実施例2と同じである。この場合、補強部材として補強パイプ7を用いたが、パイプのような円筒形でなく四角形状のもの、三角形状のものでもよい。また、筒状でなく、棒状の物でもよい。また、補強部材を挿入する位置はフレーム1の前面部または後面部に設けてもよい。また、必要ならば2箇所に補強部材を挿入するようにしてもよい。なお、実施例1のL字形の補強部材と組み合わせてもよい。

【0037】実施例4

図4は、フレーム1に補強部材挿入用の溝1cを設け、この溝1cにL字形で金属製の補強部材5の一辺部を挿入し、他の一辺部はフレーム1の前面部と対向して溝1dを形成する。この溝1dにスクリーンF2とスクリーンR3の端部を挿入し、スクリーンホルダー4を挿入してスクリーンF2とスクリーンR3とを押圧支持する。

【0038】フレーム1とスクリーンホルダー4はスクリーンF2、スクリーンR3と同程度の熱膨張率の材質で形成する。なお、スクリーンホルダー4はバネアクションを持たせた方がスクリーンを良好に支持できる。こ

の実施例の作用、効果は実施例2と同じであるが、補強部材5はフレーム1の補強とスクリーンの支持との両者を行うことができるので構造が簡単になる。

【0039】実施例5

図5は、実施例5のホルダープレート6を省いて、押圧手段としてネジ10を用いたもので、このネジ10によってスクリーンF2、スクリーンR3を固定支持する。この押圧手段は厚みの異なるスクリーンに容易に対処することができる。

【0040】実施例6

図6は実施例5を改良したものである。実施例5ではスクリーンR3に直接ネジ10で押圧して固定支持したが、この実施例では補強部材としてホルダープレート6を介してスクリーンR3を押圧支持する。即ち、実施例1の補強プレート5とスクリーンホルダー4の作用を兼用したものである。

【0041】フレーム1はスクリーンF2、スクリーンR3と同程度の熱膨張率を有した材質で形成されて、ホルダープレート6は金属あるいは、非鉄金属で形成しており補強部材としての効果を有する。

【0042】実施例7。図7に実施例7を示す。スクリーングリップ9は、スクリーンF2、スクリーンR3と同程度の熱膨張率を有した材質で作られており、その一端部がスペーサ9aとしてスクリーンF2とスクリーンR3との間に一部分挿入されて、スクリーンF2とスクリーンR3との間に所定の間隙を持たせるようにしている。スクリーングリップ9の他の一端部はスクリーンF2とスクリーンR3の端部に対向するよう形成され、このスクリーングリップ9を介して、スクリーンF2とスクリーンR3の端部がネジ10で押圧支持される。

【0043】このような構造にすることによって、PTVの輸送中に生じる振動でスクリーンF2とスクリーンR3とのこすれによる傷や発粉を防止あるいは減少する効果がある。

【0044】

【発明の効果】以上のようにこの発明によれば、フレームをスクリーンと同程度の熱膨張係数を有する材質としたので、スクリーンのたわみがなく鮮明な画像を写し出せる。また、フレームに補強部材を挿入することで機械的強度が得られ、金属製でない安価なフレームが得られる。また、厚さの異なるスクリーンに対しても押圧支持できる押圧手段としたので、スクリーンの厚み変化に対応できる効果がある。

【0045】また、押圧手段はスクリーンの材質と同程度の熱膨張率を有する材質のスクリーンホルダーを介して押圧するようにしたのでスクリーンの熱膨張に対処できる効果がある。

【0046】また、補強部材をL字形とし、フレームの前面部と側面部に亘ってこの補強部材を挿入するようにしたので、フレームの強度を増し金属性でない安価なフ

レームが得られる効果がある。

【0047】また、補強部材を柱状の部材とし、フレームの側面部に挿入してフレームの強度を増したので、金属性でない安価なフレームが得られる効果がある。

【0048】また、補強部材をL字形とし、そのL字形の一边部とフレームの前面部との間でスクリーンの端部を挟持し、補強部材は補強とスクリーンの支持との両者を行ようにしたので、構造が簡単化される効果がある。

【0049】また、補強部材をL字形とし、そのL字形の一边部がフレームの補強用部材挿入用の溝にスクリーンの前後方向に移動可能に挿入され、L字形の他の一边部とフレームの前面部との間でスクリーンの端部を挟持し、補強部材は補強とフレームの支持との両者を行ようにしたので、スクリーンの厚みの変化に対しても対応しうる効果がある。

【0050】また、スクリーンFとスクリーンRとの間に間隙を設けるためスクリーングリップの一端部をスペーサとして挿入するようにしたので、輸送中のスクリーンFとスクリーンRとの摩擦による損傷を防止する効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の実施例1によるスクリーン取付構造を示す断面斜視図である。

【図2】この発明の実施例2によるスクリーン取付構造を示す断面斜視図である。

【図3】この発明の実施例3によるスクリーン取付構造を示す断面斜視図である。

【図4】この発明の実施例4によるスクリーン取付構造を示す断面斜視図である。

【図5】この発明の実施例5によるスクリーン取付構造を示す断面斜視図である。

【図6】この発明の実施例6によるスクリーン取付構造を示す断面斜視図である。

【図7】この発明の実施例7によるスクリーン取付構造を示す断面斜視図である。

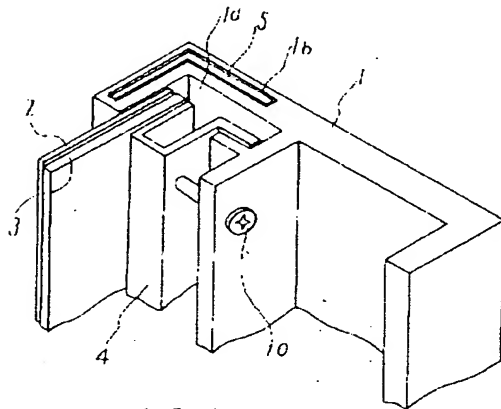
【図8】従来のスクリーン取付構造を示す斜視図である。

【図9】図8の要部の断面斜視図である。

【符号の説明】

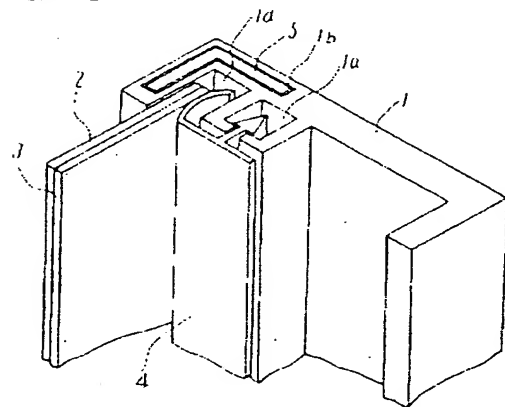
- i フレーム
- 1 a 溝
- 1 b 補強部材挿入用穴（補強部材挿入部）
- 1 c 補強部材挿入用溝（補強部材挿入部）
- 1 d 溝
- 2 スクリーンF
- 3 スクリーンR
- 4 スクリーンホルダー
- 5 補強プレート（補強部材）
- 6 ホルダープレート
- 7 補強パイプ（補強部材）
- 9 スクリーングリップ
- 9 a スペーサ
- 10 ネジ
- 11 コーナーキャップ

【図1】



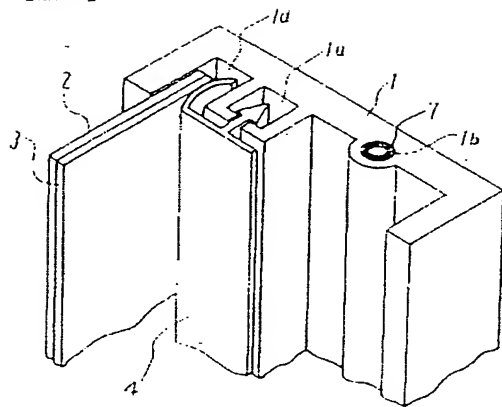
- 1: フレーム
- 1b: 補強部材挿入用穴
- 1a: 溝
- 2: スクリーンF
- 3: スクリーンR
- 4: スクリーンホルダー
- 5: 補強プレート
- 10: ネジ

【図2】



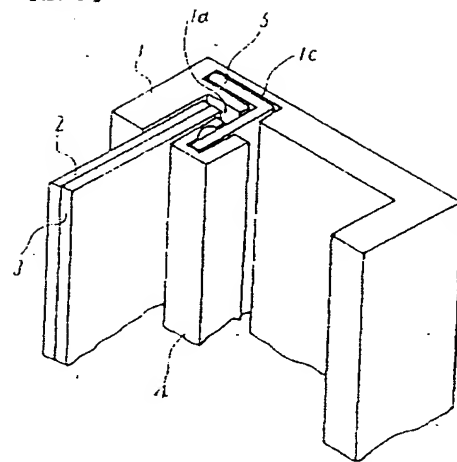
- 1a: 溝
- 1b: 補強部材挿入用穴

【図3】



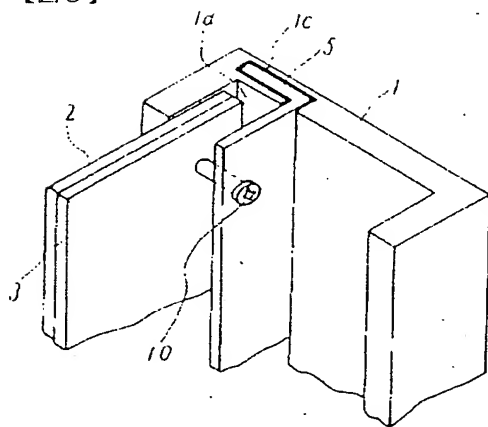
1a 当
4 部品
7 挿入ピン

【図4】

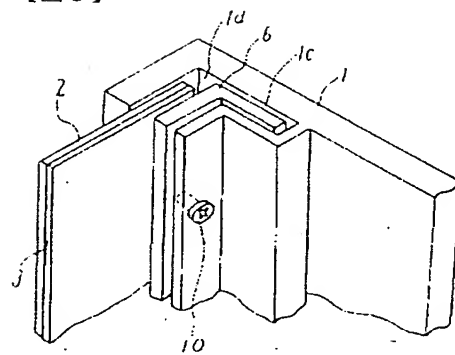


1c 部品

【図5】

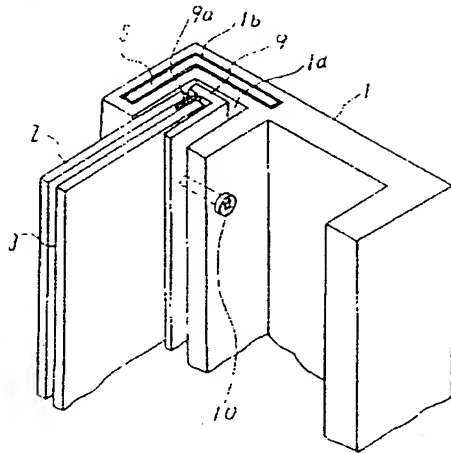


【図6】



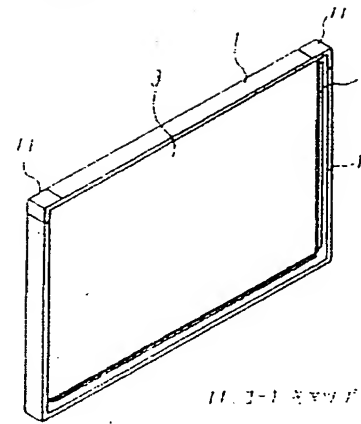
6 部品

【図7】

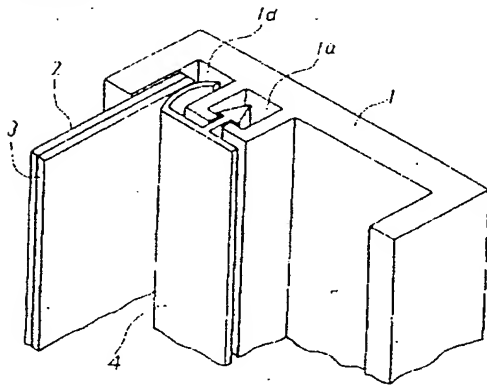


9a 227
10 227

【図8】



【図9】



1a 227
1a 227